

かめやま環境市民大学の 意義・環境教育のあり方

～ 私たちがめざす「亀山学」をつくる～

「亀山市総合環境研究センター」は、時代を先取る有効な環境政策を立案し、自治体と企業・住民が実践できる戦略を練る実践型シンクタンクとして、自治体と企業・市民・大学教員との官学産民連携により、地域のニーズに取り組む地域圏型総合環境学のための研究センターです。

亀山市は、古くから基幹道路としての東海道や大和街道、伊勢別街道が縦横にはしり、東西文化の融合基地として、また伊勢参りの人々で賑わう分岐点として栄えてきました。近代においても、国道1号線、名阪国道、東名阪自動車道、伊勢自動車道などの自動車道路が整備され、中部圏と近畿圏をつなぐ交通の要衝としての立地にあります。このため、最近ではシャープなどの大企業が誘致され、さらなる経済発展をはかれる地域として最も注目されています。このような背景の基に、亀山市は、環境と経済は相反するものではなく、相互に影響を与えながら発展を続けることで持続可能な社会形成の成功事例として最も期待が高い地域でもあります。

「亀山市総合環境研究センター」は、日本の自治体の中で最も注目されている亀山市の総合的・有機的な環境政策のバックボーンを作る有効なツールとして「亀山学」を創設し、適切な運営を図り、環境文化都市としての亀山市を構築することを目指しています。

環境教育の拠点としての活動

センターでは、感じる力・考える力・生きる力など人間が生きるための総合的な力を高めるために、地域に根ざし、地域のニーズに応えるべく環境学習プログラムを企画し、子供や市民に学ぶ機会を提供する活動を行います。

子供への環境教育は、これから大変重要な課題となっています。近年、山や川などの野外は危ないと考え、近づかない子供が増えていて、原風景としての自然との接し方がわからない子供が多くみられます。

幸い、亀山市は自然豊かな地域であり、森林、里山、農地、河川といった身近な自然に触れられる恵まれた環境が多く残されています。自然に触れることは、地域に対する愛着を深め、豊かな自然を将来に継承していくことにつながると考えられるため、地域が一体となって自然とのふれあい活動をサポートしていく教育プログラムを、環境団体（NPO）や行政、企業、小・中学校の先生と共に取り組んでいます。

啓発・情報発信・人材バンクの拠点としての活動

センターでは、亀山市の環境政策に関する、市民への積極的な広報活動を行っています。亀山市環境基本計画や総合計画策定に至るプロセスにおいて、新聞、テレビ、ラジオ、ケーブルテレビなど各種メディアを活用する他に、「亀山市総合環境研究センター」の発信媒体として、活字、インターネット、DVDやビデオ、口コミなど情報発信において有効な諸手段を用いて、積極的に広報活動を行っています。

亀山市の環境に関する情報収集や編集を担っている人々は、亀山環境市民記者5名と事務局員が担当しています。亀山環境市民記者は市民であれば誰もが参加できるようなシステムとなっています。

さらにセンターは、亀山市のみならず、三重県や東海地域、日本全国における役に立つ情報の収集・発信・データベース構築・人材バンクとしての機能を担います。例えば、専門性を活かした講演会やシンポジウム、様々なイベントへの積極的な参加、紹介などを行う。情報をどれだけ多く収集し、発信するかは、亀山市のこれからの発展をはかるうえで、勝敗を分ける大変重要な手段となります。必要とする情報や人材が確保できるようなシステム構築が大きな鍵となるので、多くの参加や協力が求められます。

事業者との連携活動

様々なノウハウを持っている事業者との連携は、これからの亀山市の持続可能な発展にとって大変重要なテーマとなります。特にセンターは、最先端企業であるシャープをはじめ、凸版印刷、日東電工など大企業や中小企業とのパイプ役を担います。

大企業や中小企業からなる既存の「事業者環境推進協議会」を母体とし、環境に配慮する企業イメージアップのための戦略を提供し、グリーン・ファンドなどの制度を設け、環境団体（NPO）の活動や環境教育の発展のために、企業からの資金導入がはかれるシステムの構築に向けて取り組んでいます。

地域連携、国際交流活動

センターでは、亀山市と地域の環境団体（NPO）や事業所、大学、諸研究機関との連携をはかり、ノウハウの共有や発展を図ります。また、近隣のアジア諸国と亀山市を結びつける活動を積極的に行い、亀山市が世界へ通用できるような国際的な都市になるような戦略を練っています。特に、韓国やブルネイなどアジア諸国との国際交流をはかるための活動を行っています。



亀山市のシンクタンクとしての活動

センターは、亀山市に根ざしたシンクタンクとして、様々な委託研究・共同研究を行います。亀山市のまちづくりなどの企画や地球温暖化対策、ごみゼロ・エミッションなどの環境政策に取り組みます。近隣の大学の教員をベースとして人文社会や自然科学分野に至る幅広い諸問題に対応します。企業の地域社会への役割のあり方、住民への認知調査（アンケートや聞き取り調査など）などに取り組み、自治体と企業、環境団体（NPO）、市民と協働しながら、亀山市の発展に貢献しています。

「亀山市総合環境研究センター」が運営している、「かめやま環境市民大学」は、2005年9月にスタートし、受講生には高校生から高齢者まで年齢層が厚く、職業も学生から定年退職者まで幅広い特徴を示していました。

受講生のみならずと講師は、亀山市の環境について総合的に捉え、住民が主役として役割をはたすことのできる市民ガバナンスの実現に向けて、「かめやま環境市民大学」を通じた住民力を高める土台ができました。

また、受講生が「かめやま環境市民大学」で学んだ知識やノウハウをスキルアップできるように、「かめやま環境市民大学大学院」を開講しました。大学院とは、みなさんと講師と一緒に、希望ゼミ（テーマ）において楽しく研究や実践的活動を進めていくもので、各ゼミ（テーマ）は、第一期のテーマであった、亀山の自然環境、産業・まちづくり・福祉・共生社会の確立、環境対策・環境法、国際交流、安全安心な暮らしをさらに発展させたテーマとなっています。

このように、「かめやま環境市民大学」及び「かめやま環境市民大学大学院」は、ヒト、モノ、情報が常に循環していく認識共同体としての役割を担っています。

